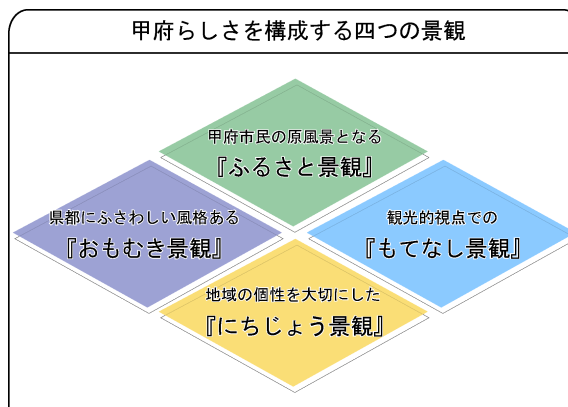


(2) 基本目標

甲府の景観づくりの基本理念を受け、特徴ある甲府の景観づくりを実現していくための基本目標を設定します。基本目標設定に当たっては、景観特性等から浮かび上がる「ふるさと」、「おもむき」、「もてなし」、「にちじょう」というキーワードに着目し、これらを甲府らしさを構成する景観として捉え設定するものとします。

甲府の景観づくりの基本目標

甲府らしさを構成する「ふるさと景観」、「おもむき景観」、「もてなし景観」、「にちじょう景観」の4つの景観を、それぞれの特性や地域の実情等に則しながら、保全し又は創出します。



▲甲府らしさを構成する四つの景観概念図

甲府らしさを構成する四つの景観とは

市民の原風景となる『ふるさと景観』

：ハヶ岳連峰や南アルプス、富士山等への眺望景観や市の北部・南部に広がる山林・山麓地帯及び昇仙峡、湖、河川などの自然景観、丘陵地や果樹園、郊外部の集落地・農地等の田園景観などに代表される景観です。

歴史と都市が調和・共存する県都にふさわしい風格ある『おもむき景観』

：甲府城跡や武田神社等の史跡、神社・仏閣をはじめ、山梨県庁別館（旧館）などの歴史的建造物による歴史的景観と、発展するまちとしてのにぎわいある都市景観が調和・共存し形成する県都にふさわしい風格を感じさせる景観です。

観光の視点での『もてなし景観』

：御岳昇仙峡をはじめ、甲府城跡、武田信玄公ゆかりの地などの観光資源や、曽根丘陵公園、芸術の森公園、小瀬スポーツ公園など広域的な各種レクリエーション拠点など、観光客等来訪者に甲府市を印象づける観光施設及びその周辺の景観に代表される景観です。

地域の個性を大切にした『にちじょう景観』

：子どものころによく遊んだ神社、お寺や水路周辺、道筋にたたずむ道祖神や一里塚、昔のたたずまいを残す建物、行き来に通る並木道や小路など、現在の日常生活の中に残された地域の個性ある景観や地域住民の記憶に刻み込まれた身近な景観です。